

《薬局サーベイランスコメント》

『第1週のインフルエンザの推定患者数は大きく増加し、2015/2016年シーズンのインフルエンザの患者数は今後急増してくるものと予想される』

2016年1月12日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>)からの2016年第1週(1月4日～10日)のインフルエンザの推定患者数は前週(第1週)の値(24,930)を大きく上回って78,154となりました(図1)。各都道府県別の第1週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、秋田県、新潟県、北海道、沖縄県、富山県、三重県、岐阜県、長野県、兵庫県、大分県の順となっています。第2週の月曜日(1月11日)の推定患者数は4,231と第1週の月曜日よりも減少していますが、これは連休の影響であり、今後推定患者数は更に増加してくるものと予想されます。

2015年第36週から2016年第1週までの累積の推定患者数は、220,642(221,000)であり、年齢群別では40～49歳(15.3%)、30～39歳(15.0%)、5～9歳(12.1%)、20～29歳(11.5%)、50～59歳(9.8%)、10～14歳(9.1%)、0～4歳(8.8%)、15～19歳(8.0%)の順となっています(図2)。成人層の割合が増加しているのは、冬期の学校等の休業の影響であると考えられます。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(271検体解析)は、A/H3(A香港)亜型43.2%、B型29.2%、A/H1pdm 27.7%の順であり、B型インフルエンザウイルスの割合が増加しつつあります(図3)。

2016年第1週のインフルエンザの推定患者数は大きく増加し、2015/2016年シーズンのインフルエンザの患者数は今後急増してくるものと予想されます。注意すべきは例年と比べて1月初旬にしては既にB型インフルエンザウイルスの検出割合が高くなっている事であり、B型インフルエンザの流行が大きくなれば、その流行は長期化する可能性があります。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

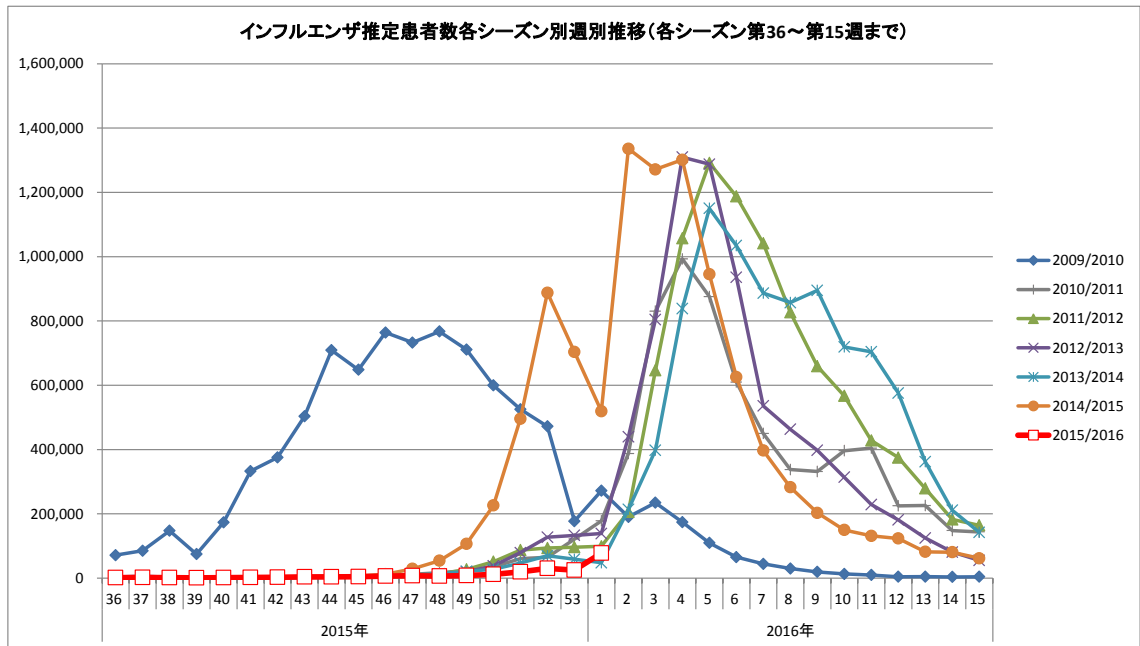


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～第 15 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

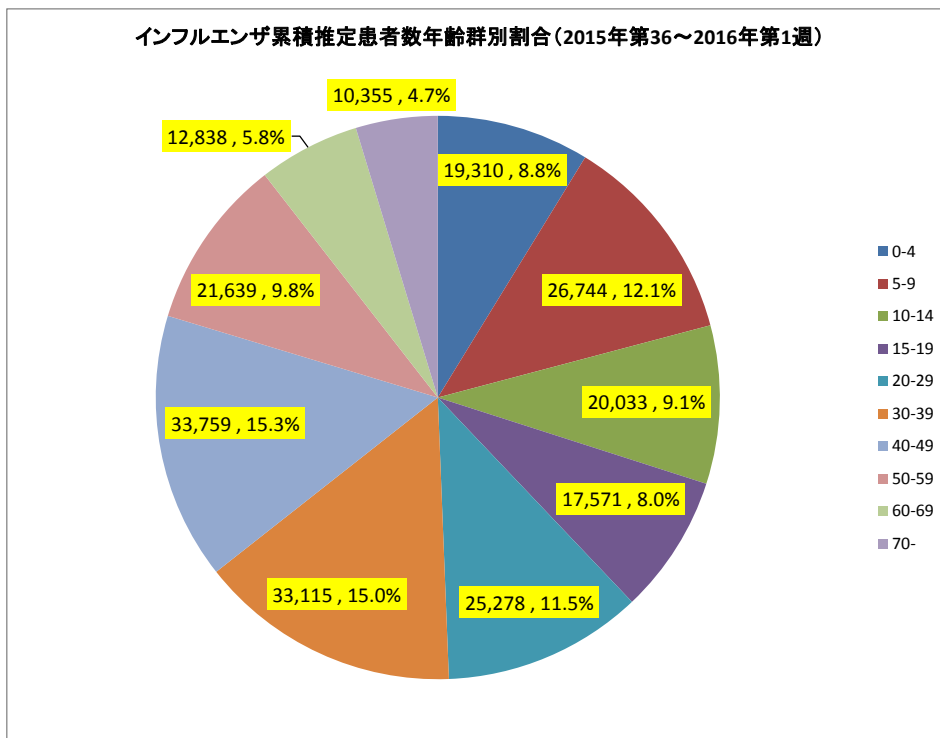


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～2016 年第 1 週、累積推定患者数=220,642）

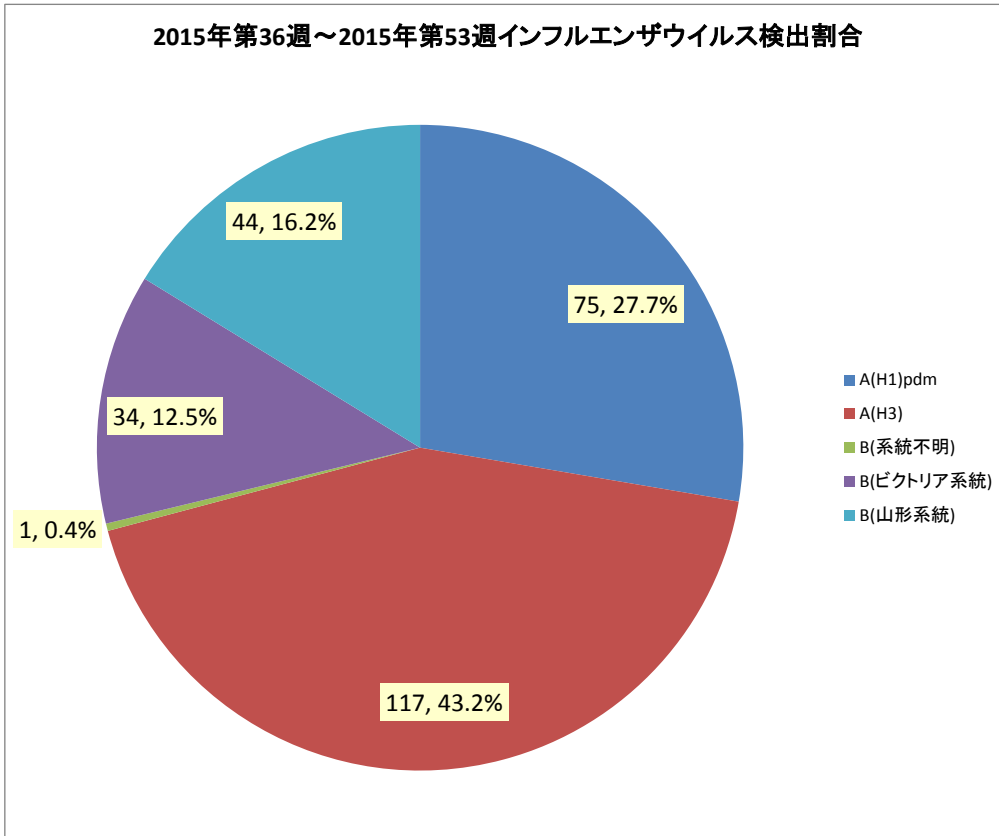


図 3. 2015 年第 36～53 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=271）